



# おにぎり通信

2016年1月16日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷周辺と銀座、日比谷公園、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

フランスでは、30年近くも路上生活を続けてきた人が、自身の経験を書いた本「物乞いとしての人生：路上での生活」を発売したところ、何万冊も売れてベストセラーになりました。この方は、20代前半で職を失って以来ずっと路上生活を続けてきましたが、2年前に公園のベンチなどで本の執筆を始め、ノートに書き綴ってきたといいます。

日本でも、路上生活をしている、あるいは一度でもしたことがある人を対象とした文学賞（「路上文学賞」ビッグイシュー）の募集が毎年行われています。昨年は10月に募集され、多摩川河川敷に住む人がその体験に基づいて綴った作品「ネコと一人の男と多摩川」が大賞（賞金5万円）を受賞しました。この方も、こうした文章をはじめて書いたとのこと。年が明けて気持ちも新たに、文学に挑戦してみるのも良いかもしれません。

## ☆1月4日(月) 福祉行動報告

どなたもお見えになりませんでした。

次回の福祉行動：1月18日(月)

東京駅丸の内北口地下に朝8時30分までに集合してください。

喫煙所横、コンビニの並びの赤富士の絵のところに「おにぎり通信」を持った者が待機しますので、声をかけてください。病気やケガの治療を希望される方や体を休めたい方と一緒に「福祉事務所」や「聖イグナチオ生活相談室」まで同行します。福祉行動は原則、毎週月曜日に行います。福祉行動は、参加される方が、ご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと福祉事務所に伝えることで成り立ちます。

### 最寄の福祉事務所と生活相談室

中央区福祉事務所・・・中央区築地 1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・・・千代田区九段南1-2-1 3階

聖イグナチオ生活相談室・・・千代田区麴町6-5-1

## 【住まい確保への支援】

昨年5月に、川崎の簡易宿所（ドヤ）の火災が発生しました。また7月には、生活保護の住宅扶助基準が引き下げられました。こうしたことを受け、住むところで不安や問題を抱えている人、特に高齢の生活保護受給者を対象とした、安定した住まい（ドヤではなくアパート）を確保するための支援が、少しずつではありますが拡大されています。

まず、アパートの大家に対して、高齢の生活保護受給者を受け入れやすくする取り組みがなされています。そのひとつは、代理納付制度の積極活用です。これは、家賃が払われなかった場合に、生活保護の住宅扶助が直接大家に支払われるもので、大家は家賃の不払いを心配することなく部屋を貸すことができます。また、家賃の保証制度もあります。これは、入居者が払えなかった家賃や現状回復の費用を保証するものです。保証料は、大家ではなく借りる側が支払う必要がありますが、この保証料は生活保護の住宅扶助の対象になります。さらには、保証人代行サービスや安否確認サービスといったものも、住宅扶助費で賄える可能性があります。こうした仕組みがうまく活用されると、高齢者を受け入れるアパートが増えることになります。

また、福祉事務所が窓口となって、生活保護受給者が安心して住める場所を見つける手伝いをするようになっていています。例えば、民間の不動産団体や東京都が、高齢者や生活保護受給者を受け入れるアパートの一覧を作成していますが、その情報は福祉事務所を通じて発信される仕組みとなっています。

こうした取り組みを進めることは、住まいが見つからない高齢者や生活保護受給者にとっても、空き部屋を抱える大家にとっても望ましい話のはずです。しかしながら、両者をうまくつなげていくべき行政の動きはまだ本格化しておらず、アパートへの円滑な入居を進めるための「居住支援協議会」があるのは、東京23区の中では豊島区、板橋区、江東区の3つに留まっています。福祉事務所をはじめとする行政に期待される役割がしっかり果たされ、高齢者や生活保護受給者が安定的な居住を確保できる環境が広がっていくことが望まれます。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せず、ゴミ箱に入れるなど、片付けにご協力をお願いいたします。おにぎりは必ずその日のうちにお召し上り下さい。また、お1人1個でお願いします。

よつや なかま れんらくさき  
四ツ谷おにぎり仲間 連絡先：080-7795-8535